

年報第2号刊行にあたって

心理科学研究センター研究代表者
人間科学部心理学科教授

長田 洋和

平成23年度に文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として採択された、社会知性開発研究センター／心理科学研究センターにおける研究プロジェクトである「融合的心理学の創成：心の連続性を探る」も今年度で2年が経過致しました。初年度は、「心と体と環境をつなぐ科学」および「心理学における効果の大きさとはばらつき」をテーマとして、シンポジウムを開催し、本プロジェクトの基盤となる研究課題とその成果を報告致しました。

今年度は、初年度からさらに発展する形で、不安、うつ、妄想といった精神疾患を取り上げ、科学的・実証的な研究と臨床的なアプローチとの関係を探る、まさに融合的心理学の一旦として、「不安、うつ、妄想に挑む心理学：臨床と基礎の融合を目指して」と題したシンポジウムを開催し、新進気鋭の研究者を招き、活発な議論を公開で行いました。また、連合学習理論の世界的研究者である、ペンシルバニア大学名誉教授のDr. Robert A. Rescorlaを招聘し、“Expansion of associative learning theory”をテーマに国際シンポジウムを開催し、わが国の同分野での優れた研究者にもご登壇して頂き、同理論の最新の知見や新しい研究方法、神経科学などの隣接領域での応用など様々な話題を紹介することで、連合学習は単純で動物の研究にしか使えないものではなく、豊かな研究領域を有するとの再発見に至れたことは、本プロジェクトで行われている研究の意義をさらに深められたと思います。

本プロジェクトの目標の一つとして、国際的な研究力の発展と発信があります。その一環として、心理科学研究センターの各センター員が積極的に国際学術雑誌への研究成果を論文として投稿受理されていることに加え、関連する国際学会での発表、さらには、海外の専門機関での研修への参加などが行われました。

特筆すべきこととして、本年度は、心理科学研究センターの山上センター員が大会長となり、「日本心理学会第76回大会」が本学で開催されました。社会知性開発研究センター／心理科学研究センターも共催という形で、同大会をサポート致しました。同大会では、各センター員がまさに融合的心理学へ向けた研究成果を発表し、充実した大会となりました。

本年報では、上述致しました研究成果をできるだけ網羅する形で報告致します。